

# わきざし・む め い で ん い ち も ん じ無銘伝一文字

●所在地／三島町 ●所有者／個人

銘	無銘
刃長	57.1cm
反り	1.52cm
姿	<small>もとはば</small> 元幅より <small>さきはば</small> 先幅の方がやや広く見える <small>しょうぶ</small> 菖蒲作り
地金	<small>いためはだ</small> 板目肌立ち <small>うつ</small> 映りが見える <small>しのぎじ</small> 鎬地は <small>まさ</small> 柾
刃文	<small>ちようじ</small> 丁字乱れ <small>ぐ</small> 五の目交り 大小変化あり <small>においぶか</small> 匂深い <small>ぼうし</small> 銚子は刃文のまま乱込み <small>やき</small> 焼詰める
中心	<small>おおすりあ</small> 大磨上げ <small>やすり目切</small> やすり目切 <small>めくぎあな</small> 目釘穴 1 個
時代	鎌倉

平安期から室町初期まで流行した「大なぎなた」をわきざしに改造したもので「なぎなた直し」と称せられる。一文字の作風をよく表して、一文字のきわ極めがついている。

